

さらに、市職員の誰もが自分の仕事に自信と誇りを持ち、発想や意欲能力を十二分に活かしていける組織のあり方などを考えてまいります。

市の仕事の推進については、地方交付税などの大幅削減や人口減少などに起因する税収の伸び悩み、ピークを迎え高止まりとなっている市債の償還などによる歳出の増加など、厳しい財政状況をしつかりと踏まえた上で、市が行うべき事業と民間が担うべき事業のすみ分けを行う事業分類の手法や行政からの視点だけではなく市民の目線から市の事務事業を評価する外部評価の手法の確立に努め、市民参画のもとに事務事業の再構築を進めてまいります。

市民活動の推進については、まちづくり活動に率先して取り組んでいる人やこれから取り組む人が幅広く情報交換を行い、個々の団体または複数の団体がまちづくり活動を多様に展開するためのシステムの構築に努めてまいります。

また、まちづくり団体が活動しやすいシステムの構築の後、まちづくり活動を支援するための財源の確保に努めてまいります。

課題②

産業連携による  
地域経済の活性化

観光を基幹産業とする新たな観光戦略については、持続発展可能な観

光地づくりを進めるため、次代を担う若い力をより発揮できる環境づくりに努めてまいります。

また、観光を軸とした多彩な産業がしつかりと有機的に結ばれ、異業種同志がさまざまな可能性を連携させ、複合して市内産業に厚みをもたらす産業クラスター計画の推進に努め、新たに生まれた産業が大きく育つていくことができるよう、いかなる小さなチャンスでも活かし、自らチャンスをつかみ取ることができるよう技術開発や販路拡大に向けて民間が果たすべき役割、行政が果たすべき役割をしつかりと確認し、その支援を図ってまいります。

自然がもたらす素晴らしい資源の価値をより高めるような加工技術の向上を図ることで、明確なイメージとして『のぼりべつ』を国内外に力強く発信し、魅力を感じることができ『のぼりべつブランドづくり』を経済関係団体のご協力いただきながら進めてまいります。

優れた技術や知識を有する高齢者や団塊の世代などがまちのために頑張りたいという気持ちを活かせるよう、まちづくり活動や起業への支援について取り組んでまいります。

課題③

市民の心がふれあう  
思いやりあふれる  
地域福祉と教育の充実

少子高齢社会を迎え、高齢者や障

がい者が住み慣れた地域で生きがいややりがいを見いだし、生き生きと暮らしていける地域社会の実現は早急の課題であります。

登別市の次代を担う子どもたちに高齢者の知識や経験を伝えるとともに、子どもたちがたくましく健やかに育つことができるよう世代を超えた交流を日常的に行える施策の充実を図ってまいります。

さらに、高齢者が生き生きと暮らし、活力ある人生を楽しむことができるよう、できうる限り要介護状態とならない健康づくりをサポートしてまいります。

子育て環境と教育の充実については、誰もが、愛する登別で安全に安心して子どもを生み、溢れるばかりの愛情を注ぎ、健やかに育てあげられる環境づくりに取り組んでまいります。

また、子どもたちが課題に直面した時、その解決に向け子どもたちが自発的に取り組み、自分で道を切り開く力やくじけることのない強い心を育てていきたいと思えます。

このまちに暮らす誰もが安全に安心して生活を営むことができるよう市が果たすべき消防、防災対策、防犯への取り組みを地域の皆さんとともに進めてまいります。

また、少子高齢社会や子育て、環境問題など、さまざまな課題に幅広く対応するため、市民の目線で課題

解決に取り組む行政組織の確立を図ってまいります。

おわりに

以上、市政執行に望む私の基本的な姿勢と所信について申し述べさせていただきました。

聖徳太子が定めたと言われる十七条憲法では、最初に『和を以て貴しと為し』と謳われています。市民・議会・行政が常に和を尊びながら取り組むことが大切であると考えております。

私は、『のぼりべつの和の心』を持って市政に取り組んでまいります。まちづくりを進める上で市民力の結集は特に重要なことであり、また、まちの現状と将来について議論を尽くすことも重要なことであります。

市政の主人公は市民であります。私は、市民の皆さんとともに真剣に知恵を出し合い汗を流して、夢と希望にあふれるまち、安心と活力のあるまち、市民・議会・行政が一体となつて取り組む協働のまちづくりがどこよりも輝いている、日本一だと自信をもつて言えるまちにしたいと思えます。

さらに、職員がまちの発展と市民の幸せを何よりも一番に願ひ、市民のために行動する日本一の市役所を目指し、市政を推進してまいりたいと思えます。